



## 高遠石工ってなに？

江戸時代、信州高遠は石工の里として全国的に知られ、北は青森県、南は山口県に至るまで1都18県で作品を残しています。高遠藩には数百人の石工がいたといわれ、旅稼ぎ石工として藩の財政を大きく支えていました。また江戸城の石垣や、品川お台場の砲台の石積みにも深く関わっており、高遠石工は高い技術を誇るブランドになっていました。現在の高遠町だけでも2,229基の石仏、石造物が野外美術館のように町の至る所で目にすることができます。ぜひ、この高遠の歴史あるアートを間近でお楽しみください。



## 守屋貞治ってだれ？



高遠町塩供生まれで、江戸時代に高遠石工の中でも稀代の名工と呼ばれたのが守屋貞治（もりやさだじ）です。彼は石仏の製作を専門とし、68年の生涯において336体におよぶ名作を残しました。温泉寺（諏訪市）の住職で名僧として名高い願王和尚を仏道の師として仰いだ貞治は、自らも仏に帰依し、経典や儀軌に基づいて仏心の込められた石仏を刻みました。石仏を刻む際には経文を唱え、香を焚きしめて作業に打ち込んだと言われています。貞治が単なる「石工」ではなく、「石仏師」としてよばれるのはこうした由縁からです。他の石工を圧倒する技量で彫られた貞治の石仏は、端正で繊細優美でまさしく「貞治仏」に相応しい名作ばかりです。

